

関西CC工業会の取り組み①

竹林泰治会長に聞く



需要環境の厳しさが継続している関西地区の薄板業界では、コイルセンター各社が適切な価格転嫁と加工費改定などの取引適性化に注力しユーザーとの交渉を日々進めている。

関西コイルセンター工業会の竹林泰治会長（福栄鋼材社長）に、足元の状況や地区を取り巻く現状、会員企業

へ伝えたい思いについて話を聞いた。

—地区の足元の状況について。

「1〜3月、4〜6月と荷動き・引き合いともに低調だった。年初から需要低迷は深刻で、加工量・出荷量は前年同月比約10〜15%減少。元に戻る気配がない。他地区に比べ

るとコアな需要業界を保持するため、落ち込み度は大きい。需要分野別で見ると、自動車関連はタイハツ工業の生産が再開し、ようやく回復への期待が高まってきた。一定の回復はするだろうが、不正の再発防止と人手不足により、無理な挽回生

大阪万博向け需要がいよいよこれから本番に入るの期待したい。—

「地区は輸入材の扱いが多いことも特徴の1つ。中国などアジアからの安値材流入によって、価格の多極化が続いている。非

整が終了し回復するの期待している。データセンター、物流倉庫向け建築関連は好調を維持。いずれにせよ今後短期的な変動はあるが、新型コロナウイルス以前の加工量に戻り、多額の設備投資を行っている。その保全、更新、自動化などに億単位の多額の資金がかかる。

「会員企業へ伝えた思いを。」

「われわれコイルセンターは鉄鋼業・製造業のサプライチェーンの二役を担う重要な立場であり、多額の設備投資を行っている。その保全、更新、自動化などに億単位の多額の資金がかかる。

非価格競争力で切磋琢磨

産はしないと聞いている。鋼製家具関連は、1カー、協力会社他地区に多いことが特徴だが、働き方改革や多様化の影響で薄板を使用する商品が減少して

「正直見逃せない部分もあるが、自動車関連は前述の理由で多少の生産回復が見込めるのではないかと。半導体関連の産業機械、北米向けガス器具なども調

「会員企業には、遠慮なく工業会の活性化や活動内容に対するご意見を頂きたい。自社の経営課題解決のために工業会をどんどん利用していただき、関西のユニークな会員企業の健全な発展に資する工業会でありたい」

「地区の7〜9月の予測は。」

「正見見逃せない部分もあるが、自動車関連は前述の理由で多少の生産回復が見込めるのではないかと。半導体関連の産業機械、北米向けガス器具なども調

量が増えるという覚悟し、量から質への転換に業界として真剣に取り組むべきだ。自社とサプライドを持ち、それら機能の対価をしっかりと取引条件に反映させたい。自社の経営課題解決のために工業会をどんどん利用していただき、関西のユニークな会員企業の健全な発展に資する工業会でありたい」

「会員企業には、遠慮なく工業会の活性化や活動内容に対するご意見を頂きたい。自社の経営課題解決のために工業会をどんどん利用していただき、関西のユニークな会員企業の健全な発展に資する工業会でありたい」

（芦田 彰）